

平成 20 年 8 月 10 日
パリ産業情報センター
駐在員 社本 朗

一般調査報告書

愛知県稲垣副知事サラゴサ万博ジャパンデー訪問と万博の経済効果

稲垣愛知県副知事は 7 月 19 日から 24 日にかけて、スペインにてサラゴサ万博ジャパンデー公式式典・催事への出席、サラゴサ市長との AVE(Association des Villes et Régions Hôtes d Expositions internationals: 万博開催都市・地域連盟)会議打ち合わせ、GISPRI(Global Industrial and Social Progress Research Institute:(財)地球産業文化研究所)主催の愛・地球博成果継承「市民参加」出展事業(サラゴサ万博会場内)におけるメッセージの発信を行いました。

このサラゴサ万博は約 600 万人の入場者を目標としていますが、フランス経済・財政・産業省の調査によるとサラゴサ市が位置するアラゴン州では万博の開催により、約 2.7%増(2004 年 7 月時との比較)の雇用促進などが見込まれると試算されています。

<サラゴサ万博ジャパンデー>

サラゴサ万博は正式名称を「2008 年サラゴサ国際博覧会」といい、スペイン国アラゴン州サラゴサ市にて 2008 年 6 月 14 日(土)～9 月 14 日(日)の 93 日間開催されています。

万博のメインテーマは、「水と持続可能な開発 Water and Sustainable Development」で、人々の「水」への意識を変えること、革新的な優れた技術によって効率的な水の管理システムを確立すること、地球規模での水に関する持続可能な開発の議論を深めることを目的としています。

万博ではほぼ毎日、出展国のナショナルデー・イベントが開催されていますが、7 月 21 日(月)はジャパンデーでした。

公式式典には、皇太子殿下、森喜朗元首相、豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長が出席する中、前回万博の開催地(愛知県)の代表として稲垣愛知県副知事が出席しました。

稲垣副知事は式典出席者である多くの日本国政府や愛知万博関係者、サラゴサ市関係者とあいさつをして、愛知万博開催時のお礼やサラゴサ万博ジャパンデー周辺に行われる NPO・NGO 等による市民参加プログラムへの出席を促していました。

式典自体は、万博会場内に新しく建設された国際会議場(約 1,500 席)がほぼ満員に埋まる中、皇太子殿下のあいさつとスペイン側のセレモニースピーチが行われ、石川県を拠点に活動する炎太鼓による白熱した演技が行われました。

式典翌日には、稲垣副知事はサラゴサ市庁舎を訪問し、サラゴサ市長 Mr. Juan Alberto Belloch Julbe と会談し、万博開催後の地域づくりについて愛知県の例を挙げながら、熱心に意見交換をしました。

また同日に、サラゴサ市庁舎を訪問していた皇太子殿下とお言葉を交わすハプニングもあり、殿下から「サラゴサ万博が今日あるのは、愛知万博が成功したおかげです。」というお言葉をいただきました。



サラゴサ万博ジャパンデー公式式典会場前にて愛知万博関係者と記念撮影する稲垣副知事(中央)

< サラゴサ万博の経済効果 >

フランス経済・財政・産業省が2007年6月に発表したサラゴサ万博の経済効果を試算した調査報告によると、サラゴサ万博開催やサラゴサ市内整備のために約15億ユーロ(約2,475億円)が投資されています。

これらの費用のうち16.5%にあたる2億4,500万ユーロは万博公社が負担しますが、残りは国・地方といった公的資金や企業などからの資金にて補われています。

投資額の約42%にあたる6億4千万ユーロ(約1,056億円)は万博会場の建設や周辺施設整備に使われ、その他の経費は新しい交通インフラ整備などサラゴサ市内のハード整備に対して使用されています。

このような万博に対する投資や万博予想入場者数600万人(スペイン人:330万人、外国人:270万人)がサラゴサ市を含むアラゴン州に滞在する効果を考慮すると、アラゴン州における2005-2008年の雇用・経済成長として、約2.7%の雇用者数の増加、約3.5%の総付加価値額の増加、約3.3%の家計収入の増加が見込まれています。(2004年7月時との比較)

雇用については、万博開催によって2005~2007年の間に主に建設業界の需要として平均して3,660口/年が新たに見込まれ、万博開催年である2008年には約13,700口/年の雇用創出が見込まれています。

万博が開催されなかった場合の試算と比較するとその伸び率は0.7%増加しており、万博が雇用創出に貢献していることがわかります。

総付加価値額については、2005~2008年の4年間で11億ユーロ(約1,815億円)となることが見込まれています。万博が開催されなかった場合の額と比べると、その伸び率は約0.7%の増加が見込まれています。

家計収入の増加も総付加価値と同じような増加が見込まれています。

< サラゴサ万博後 >

サラゴサ万博後は、各国が入っているパビリオンはビジネスゾーンとして、多くの企業のオフィスとして使えるよう改築される予定です。

サラゴサ市は、マドリッド、バルセロナ、バレンシア、ビルバオといったスペインの主要都市のちょうど真ん中に位置するという地理的な優位性に加え、近年の AVE(スペイン新幹線)や高速道路の完成により主要都市へのアクセスは格段に良くなりました。

サラゴサ市の関係者によると、サラゴサ万博の地元の盛り上がりや知名度の向上、地理的優位性を生かして、新たな産業の誘致を積極的に行って、万博会場のビジネスゾーンを町づくりの一つの核として行きたい意向のようです。

あと1か月続く万博の成功を期待しつつ、万博後のサラゴサ市、アラゴン州の経済・産業動向にも注目したいと思います。